

国土交通大臣 齊藤鉄夫 様

東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 金子 慎 様

岐阜県のトンネル工事で犠牲者を出したことに抗議し、 リニア新幹線工事の中止を強く求めます

10月27日夜、岐阜県中津川市瀬戸のリニア新幹線瀬戸トンネル工事現場で土砂崩落があり、作業員二人が巻き込まれ、一人の方が亡くなり、もう一人の方が重傷を負いました。発破作業のあと崩落が起きたということですが、安全な施工管理のもとに工事が行われていたとは信じがたい事故です。現場の施工業者はもちろんですがついに犠牲者を出したこの悲惨な事態について、東海旅客鉄道株式会社（以下JR東海）の責任は極めて重大です。亡くなられた方、けがをされた方に哀悼の念とお見舞いを申し上げます。

現場に近いリニア新幹線山口工区では2019年4月8日に作業用トンネル上部の地盤が崩落した事故を起こしています。その四日前にトンネル内部で崩落が発生したにも関わらず、施工業者の鉄道・運輸機構はその事実を公開しませんでした。この事故は人的被害がなかったものの調査が行われ、その年の11月に工事は再開されました。住民団体からはいづれ犠牲者が出る事故が起きるのではないかという声が出ていました。

それから半年後の2019年10月8日、リニア山梨実験線の車両基地で車両内部に設置してあった断路器から出火し、JR東海の作業員ら3人が重軽傷を負いました。JR東海は「走行に支障はない」として出火後まもなく、県民の体験乗車にこの車両を走行させています。

今回と同じようなトンネル工事はリニア予定沿線各地で非常口や斜坑トンネル建設のため多くの場所で行われており、各地の工事を安全に進めることに強い疑念を覚えざるを得ません。

また、昨年10月18日、東京外環大深度工事が原因で調布市の住宅街で道路が陥没し、東日本高速道路（NEXCO 東日本）は2年間工事を中止し30戸の住宅を取り壊し住民を転居させるために動いています。一方、この事故についてJR東海は「特殊地盤における施工管理に課題があった」というNEXCO 東日本の無責任な調査結果をそのまま踏襲し、住民が強く求める地盤・地質調査の徹底を求める住民の声を無視して大深度工事の本工事につながる「調査掘削」を強行しています。

さらに、今年7月に静岡県熱海市で起きた土石流事故は26人もの犠牲者を出す惨事となり、原因が川の上流付近に盛られた工事残土が豪雨により流出したことでありわかりました。リニア新幹線ではトンネル工事により6千万立方メートル近い膨大な残土が排出され、多くが山間の谷や川岸に盛り土処分されようとしています。私たちは国交省が行う全国の残土処分地の総点検にリニア残土処分地を対象として含めるよう要望書を提出しています。

私たちはリニア工事を進めることによる生命や自然への重大な影響を重く見て、リニア工事の中止を求めて国土交通大臣とJR東海社長に以下の点を強く要請し回答を求めます。

1. 政府並びにJR東海はリニア沿線の工事をいったん中止し、岐阜県瀬戸トンネル事故の原因調査を徹底的に行い、結果を住民に公開すること。
2. 政府並びにJR東海はリニア工事が住民の生活や自然環境への深刻な影響を及ぼすことから、保全対策については沿線自治体や住民の意見や要望に配慮すること。
3. 政府は東京外環の道路陥没事故を受け止め、リニア大深度工事の調査掘削と本工事を中止させること。
4. 政府は静岡県熱海市の土石流災害を深刻に受け止め、リニア建設残土の処分地、予定地について実態と安全対策の総点検を行うこと。

以上

2021年11月9日

☆リニア新幹線沿線住民ネットワーク

リニア・市民ネット東京

リニア新幹線を考える町田の会

リニア新幹線を考える東京神奈川連絡会

リニア新幹線を考える相模原連絡会

リニア・市民ネット山梨

南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク・静岡

リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク

飯田リニアを考える会

NO！リニア連絡会

東濃リニアを考える会

リニアを考える岐阜県民ネットワーク

リニアを考える愛知県連絡会

リニアを問う愛知市民ネット

リニア・大阪市民ネット

☆リニアから住環境を守る田園調布住民の会

☆外環ネット